

知ってる？ 諏訪圏域子ども応援 プラットフォーム

「諏訪圏域子ども応援プラットフォーム」という名称をご存知でしょうか？
昨年、主に小学校を通じて配られた「みんなの居場所」という冊子をご覧になった方もいらっしゃるかもしれません。この冊子を制作し、諏訪圏域6市町村に暮らす人みんなで、子どもたちと子育て世帯を応援していくと活動しているのが「諏訪圏域子ども応援プラットフォーム」です。

諏訪圏域6市町村は、長野県の中でもたくさんの「子ども支援・子育て支援」の団体・個人が活動している地域です。
これらの力をつなげてもっと広く、もっと質の良い支援ができるようにと生まれたのが「諏訪圏域子ども応援プラットフォーム」。
どんなことをやっていて、これからどんなことをやっていくのでしょうか。
みんなて知って、一緒に考えていきましょう。

1 「いっしょ」って なんだろう？

プラットフォームに登録している団体にはいわゆる「居場所」を提供してくれるところが多くあります。よく知られているのは「子ども食堂」といわれる、食事提供を目的としている場所です。

「一場所多役」とは、一つの場所に複数の機能を持たせることで、例えば食事提供と学習支援などですが、プラットフォームではさらに、それぞれの地域性を加味し、子どもが少ない地域の「居場所」は必ずしも子どもだけのものでもなくとも良いのでは、と考え「シニア世代の拠り所」としてもらえるよう、シニア世代の方にも積極的に「居場所」を使ってもらおうようにしています。そうすることで、子育てを終え様々な活動を手伝ってくれたシニア世代の方の中から「新たな居場所」を見つけ、より元気になったという方も出てきました。

隔てなく地域の人が利用することで皆が元気になる。「みんなのいっしょ」が増えていくことで、地域全体が豊かで幸せになっていくのではないのでしょうか。
また「孤育て」と言い換えられてしまう

子どもの置かれた状況は大きく様変わりし、核家族化、経済格差、学力格差など、様々な要因が子どもの健全な「育ち」をゆがめていると言われています。岡谷市諏訪市、茅野市、下諏訪町、富士見町、原村の6市町村からなる諏訪圏域は、古くから子ども支援・子育て支援の団体が多く、各々が多様に活動を続けている、長野県の中でも子育て支援活動が活発な地域です。
親の働く環境や多様な学校生活など、子どもや子育て世帯の抱える問題が複雑になってきた昨今、もっと広く、もっと質の高い支援が求められるようになってきました。そうした中、子どもたちを取り巻く環境を改善するため、長野県は、県内10圏域ごとに、地域の力を結集して「信州こどもカフェ推進地域プラットフォーム」を立ち上げるよう要請しました。この呼びかけ

プラットフォーム

わたしたちと一緒に
地域や子育てについて
考えましょう！
ぜひプラットフォームに
ご登録ください！！

代表運営委員 石城 正志さん
副代表運営委員 宮澤 節子さん
運営委員 木村 かほりさん
運営委員 小林 佳代さん

お問合せ
登録
申し込み



諏訪圏域子ども応援プラットフォーム
運営委員会事務局
NPO 法人信州協働会議
茅野市ちの 3053 かふえ天香内
TEL:090-1865-7933 (木村)
FAX:0266-55-6088
e-mail:kodomoptsuwa@gmail.com

みんなの居場所と心をつなぐ 諏訪圏域子ども応援 プラットフォーム



月刊ふらざ諏訪6月号より
毎月、子ども支援の活動
紹介や予定案内を掲載
していきます！
お楽しみに！

3 つながることのできる こんないっしょ。

孤立してしまうお母さんやお父さんが誰かと交流を持てる場所になれば、悲しいけれど増えている児童虐待を減らすきっかけにつながるかもしれません。

圏域内の支援団体を集めることで、様々な団体があることが見えてきました。選択肢が増えることで、利用者が一番居心地の良い場所を選ぶことができるようになります。しかし、圏域内と言っても自分の住んでいる地域から遠いなど、実際には利用

に応えた各団体の代表者たちは、諏訪圏域で支援活動を続けている団体を横につなげ、手を取り合って、みんなで子育てを支援していけるよう、2017年に「諏訪圏域子ども応援プラットフォーム」を立ち上げました。現在、運営委員は11名。登録している団体は70、個人では35名が登録し、年々活動の場を広げています。
「プラットフォーム」とは、基礎や土台、環境を意味する言葉で、ビジネス用語としては「商品やサービスを提供する企業と利用者結びつく場所」という意味で使われます。「諏訪圏域子ども応援プラットフォーム」(以下、プラットフォーム)は、従来からある各団体を結びつけ、お互いが得意分野をもちより足りないところを補い合い、一つの団体が「できること」を増やす手助けをしています。

団体同士が結びつくことで、支援が必要な人と各団体が広い範囲で結びつき、多様な支援を受けられるようになります。さらにそこを介して人同士が結びつくこともでき「居場所と居場所」「居場所と人」「人と人」を結びつけるという役割を担っています。
プラットフォームは行政とも連携しているのですが、小中学校との情報交換がしやすく、また行政の支援が必要な人に迅速に適切な案内ができるなどの利点も多く、官民の協力体制で支援に臨むことを目指しています。

「みんなの居場所」カタログは ここにあります！

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> ゆめひろ | 諏訪市末広 1-11
TEL:0266-55-8734 |
| <input type="checkbox"/> すわ子ども文化
ステーション | 諏訪市清水 3-3970-3 「ふれあいの家」内
TEL:0266-58-3494 |
| <input type="checkbox"/> みんなのお家ずまいる | 諏訪市四賀赤沼 1676-2 (crepe shop Sunny's 内)
TEL:090-9357-5167 (渡辺) |
| <input type="checkbox"/> かふえ天香 | 茅野市ちの 3053
TEL:090-1865-7933 (木村) |
| <input type="checkbox"/> Glück(ぐりゅっく) | 茅野市玉川 9787-1
TEL:0266-79-7625 |
| <input type="checkbox"/> 各市町村の子ども課窓口にも置いてあります | |

4 高め合い・結びつき。 発信つなぐ

プラットフォームでは、交流会によって浮かび上がった問題を解決するために、研修会を開き知識を深め合う活動もしています。昨年までは、人材不足、資金繰り、場所の確保など、直面している問題のための講座や、子どもの権利や気持ちを知るための「子ども観」という講座を開催。また各団体の活動を報告し合い問題点や解決策を共有する研修会などを開き、各団体それぞれのスキルアップをはかることに重点をおいてきました。今年度は蓄えた力を外に発信していくことに方向を変え、それぞれの団体を結びつける活動をさらに強化しつつ、利用者に各団体の活動を知ってもらうことにも力を入れていく予定です。

運営委員の皆さんは「子どもは地域で育てる」「学校や家庭でできないことは地域で役割を分け合えばよいのでは？」と声を揃えておっしゃいます。昔の日本がそうだったように「育ち」は家庭や学校の中だけでなく、近所の大人や色々な人とふれあうことで培われると言います。行政だけに頼らず、民間の団体も頑張っており、官民共同で色々な居場所を増やし、子どもや地域の人々の居場所、心の拠り所が増えていくことがプラットフォームの願いです。今一度、地域での子育てを考えてみませんか？